

米国景気概況(2022年12月)

2022年12月5日

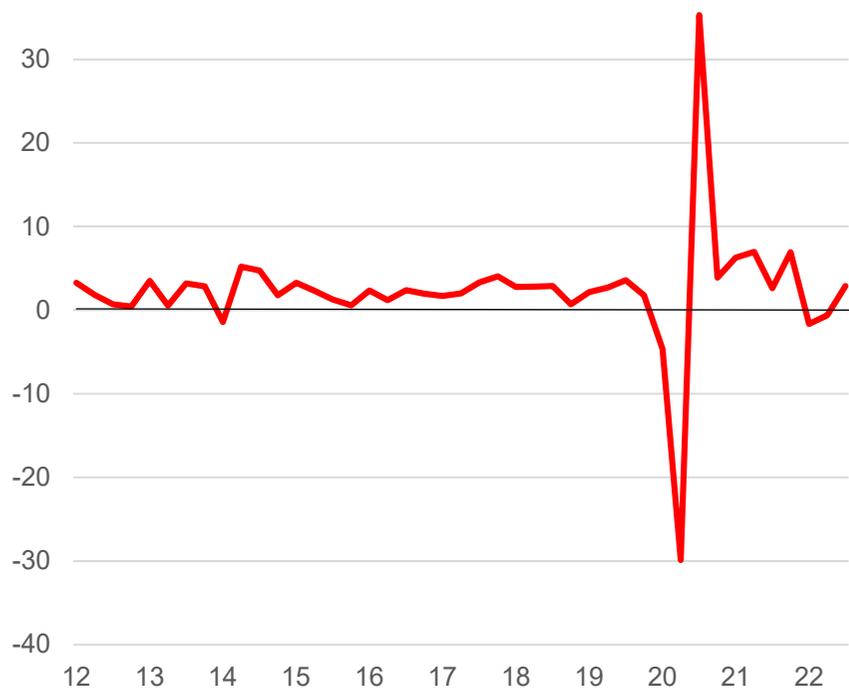
調査部 主任研究員 細尾 忠生

景気は減速

米国経済は、雇用など一部に底堅い動きもみられるものの、全体として減速している。7-9月期の実質GDP成長率(改定値)は前期比年率2.9%と3四半期ぶりにプラス成長となった。もっとも、輸出増・輸入減による外需寄与度が2.9%にのぼり、国内需要の伸びは同0%にとどまった。ISM景況指数も低下傾向が鮮明になるなど景気は減速している。先行き、インフレの影響による消費抑制や企業のコスト増、金利上昇による住宅・設備投資の抑制などにより、景気は一段と減速する見通しである。

実質GDP

(前期比年率、%)

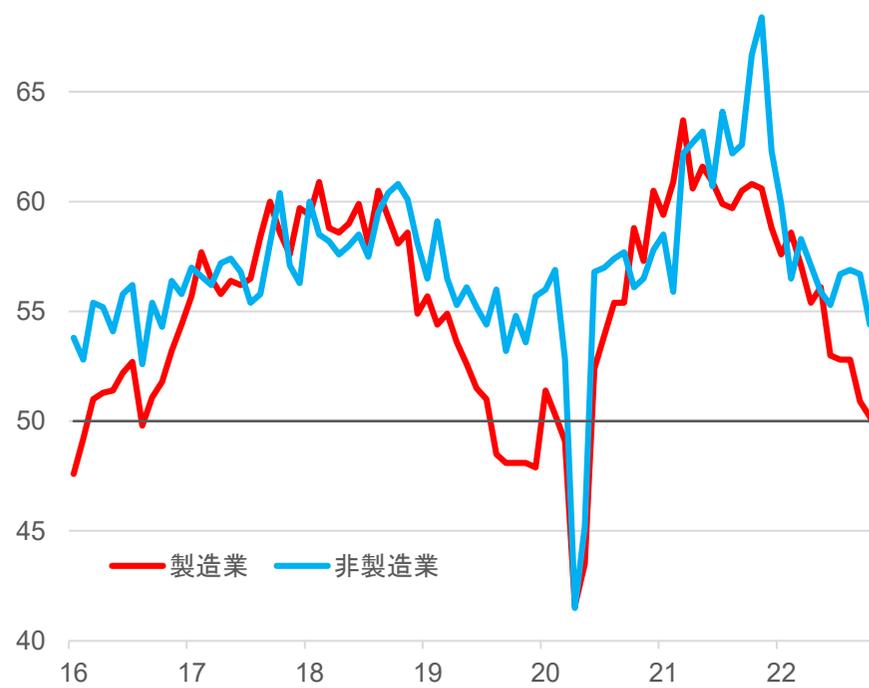


(出所)米商務省

(年、四半期)

ISM景況指数

(%)



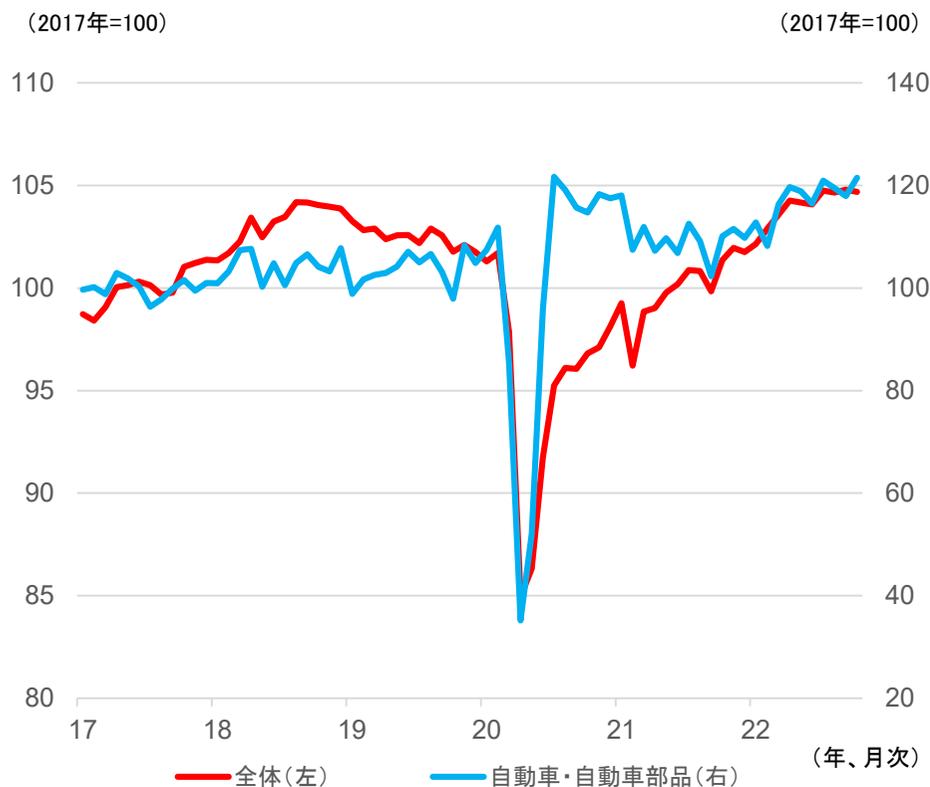
(出所)米供給管理協会

(年、月次)

生産は微減、雇用は増加

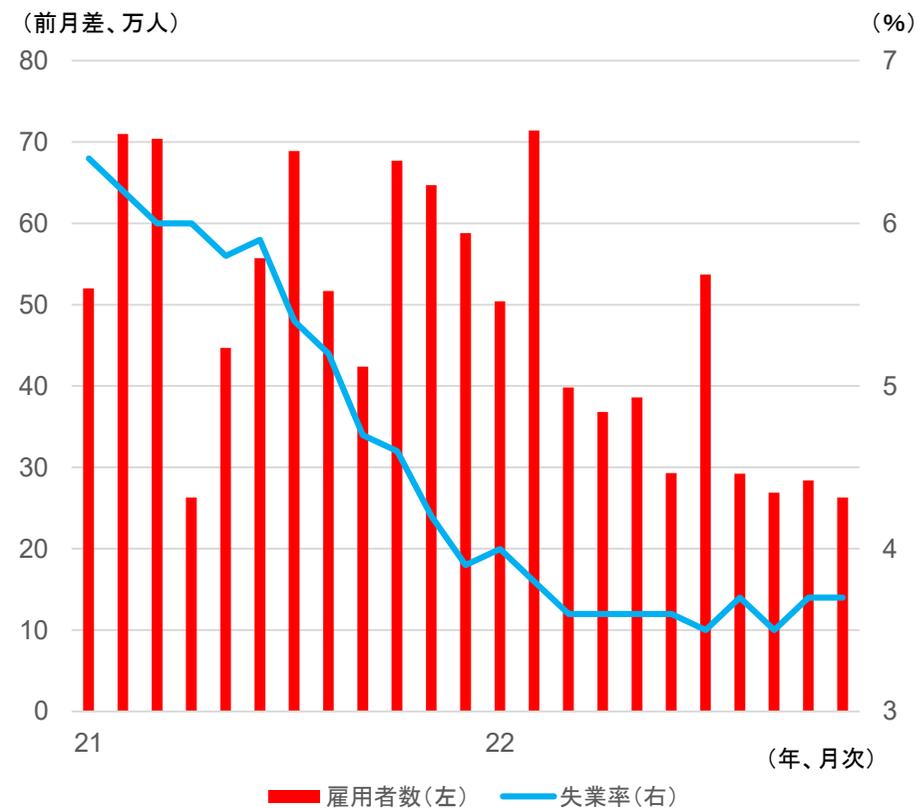
- 9月の鉱工業生産は前月比0.1%減少した。自動車・同部品が同3.0%増加したが、電力が全体を押し下げた。一方、設備投資動向を示す10月のコア資本財出荷は同0.7%増と2ヶ月ぶりに増加した。
- 11月の非農業部門雇用者数は前月差26.3万人増加した。娯楽・宿泊・飲食(同8.8万人増)、教育・医療(同8.2万人増)などが雇用増をけん引した。一方、失業率は3.7%と横ばいだった。また、労働参加率は3ヶ月連続で低下した。

鉱工業生産



(出所)米FRB

雇用



(出所)米労働省

消費は増加、物価上昇率は鈍化

- 10月の実質個人消費は前月比0.5%増と1月以来の高い伸びとなった。8、9月分も上方修正され3ヶ月連続で高い伸びを記録した。10月の内訳をみると、耐久財は同2.7%、非耐久財は同0.3%、サービスは同0.2%いずれも増加した。特に、自動車は同5.8%の高い伸びとなったほか、宿泊が同0.8%、外食も同0.6%増加した。
- 消費者物価(エネルギーと食料品を除くコアベース)上昇率は、10月に前年比6.3%と2ヶ月ぶりに鈍化した。FRBが重視する個人消費価格指数(同)上昇率も10月は同5.0%と3ヶ月ぶりに鈍化した。

実質個人消費

(前月比、%)

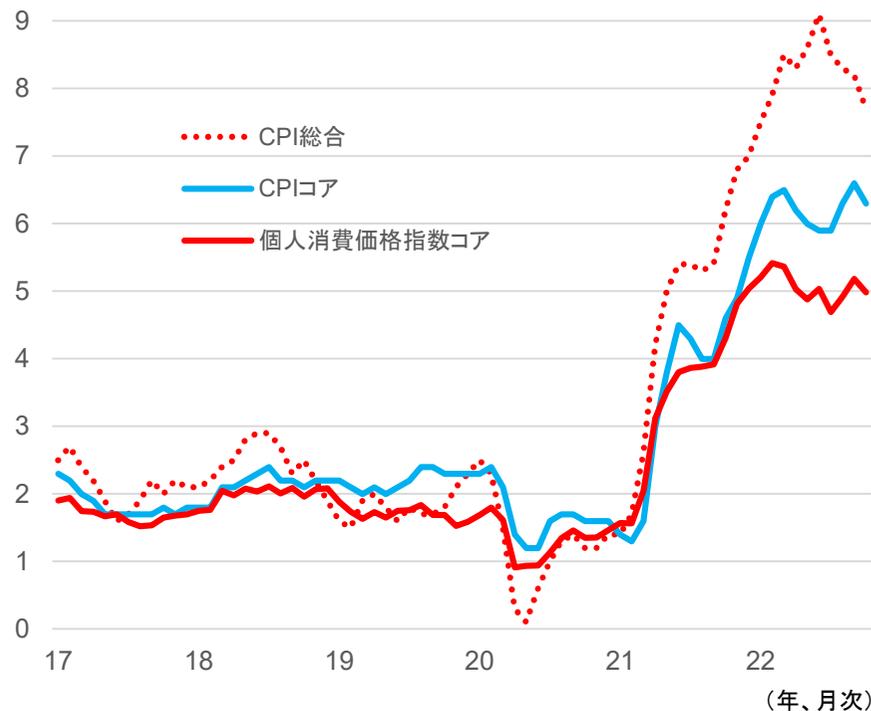


(出所)米商務省

(年、月次)

物価

(前年比、%)



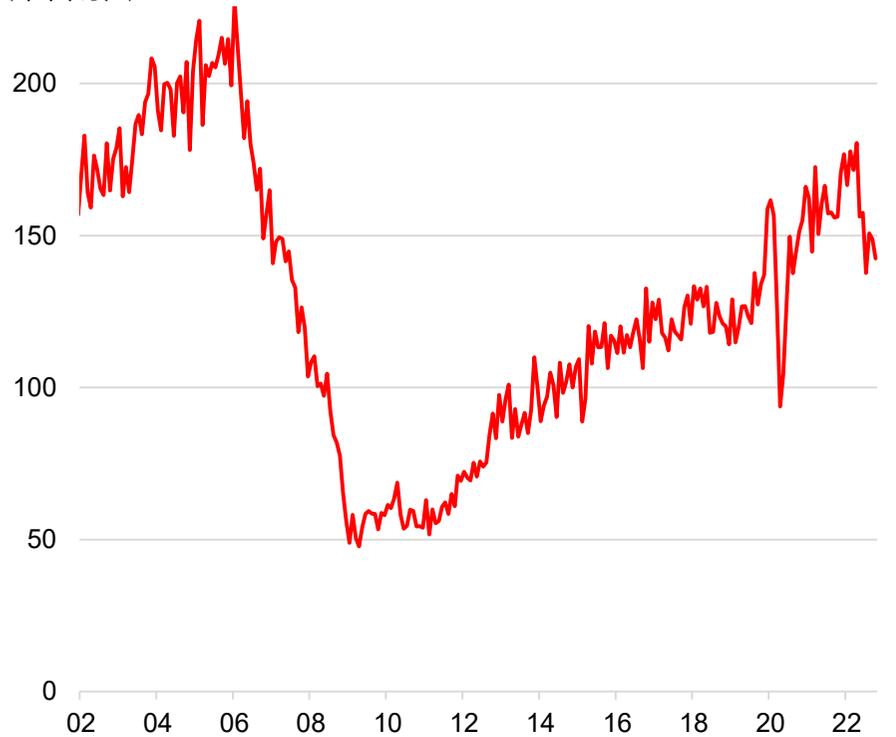
(出所)米労働省、商務省

住宅着工はピークアウト、価格も鈍化

- 10月の住宅着工件数は年率143万戸と2ヶ月連続で減少した。住宅ローン金利の上昇により販売が減少しており、物件不足などに起因した着工増の動きにもピークアウト傾向がみられる。
- 9月の住宅価格指数上昇率は前年比+10.7%と6ヶ月連続で鈍化し1年9ヶ月ぶりの水準に低下した。販売や着工の減少により住宅価格の鈍化は今後も続く公算が大きい。

住宅着工件数

(年率、万戸)



(出所)米商務省

(年、月次)

S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数

(前年比、%)



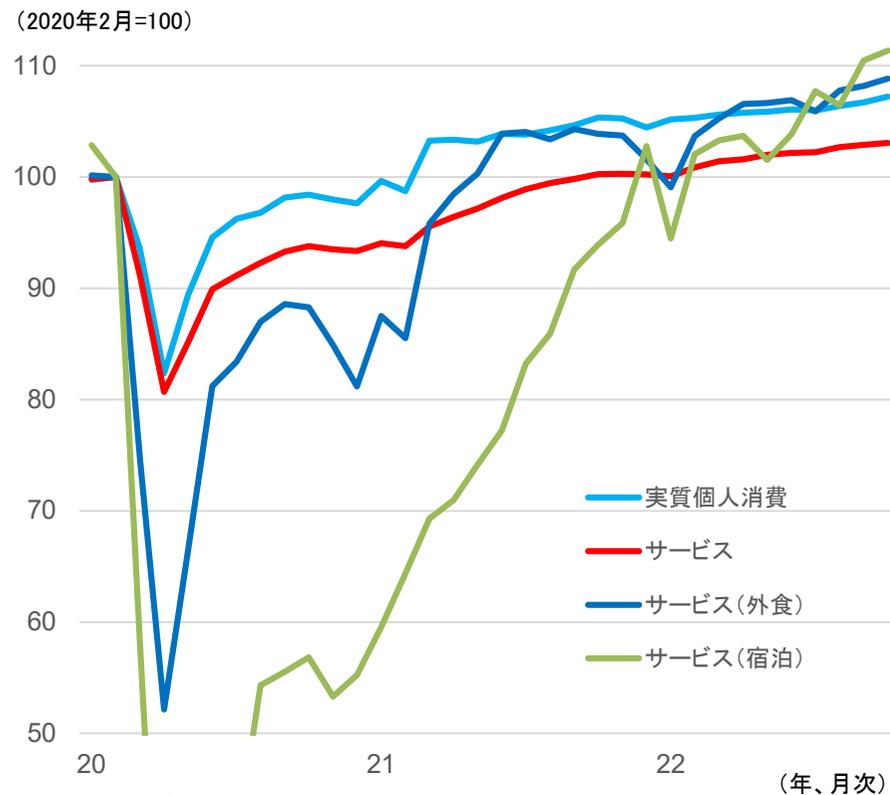
(出所)S&P Global

(年、月次)

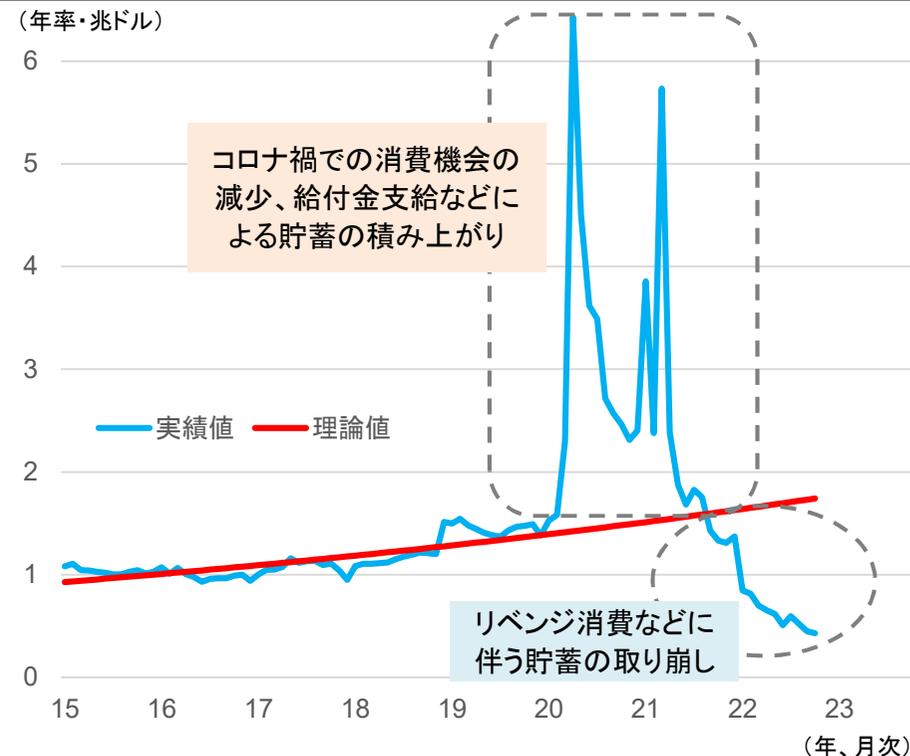
貯蓄取り崩しによるサービス消費の拡大

- 米国の個人消費は、インフレの影響が懸念されるものの、このところ底堅い動きが続いている。内訳をみると、直近10月は耐久財が強かったが、ならしてみればコロナ禍からの回復が遅れていたサービス消費の回復が顕著になっている。
- 所得の伸びをみるとインフレ率を下回り、実質所得は減少している。そうした中、消費拡大を促しているのが、コロナ禍での消費機会の減少により積み上がった貯蓄である。機械的な試算によると2.3兆ドルと可処分所得の12%に相当する貯蓄が余分に積み上がったとみられ、この資金が来年にかけてサービス消費の拡大をもたらすことになるとみられる。

サービス消費の動向



個人貯蓄

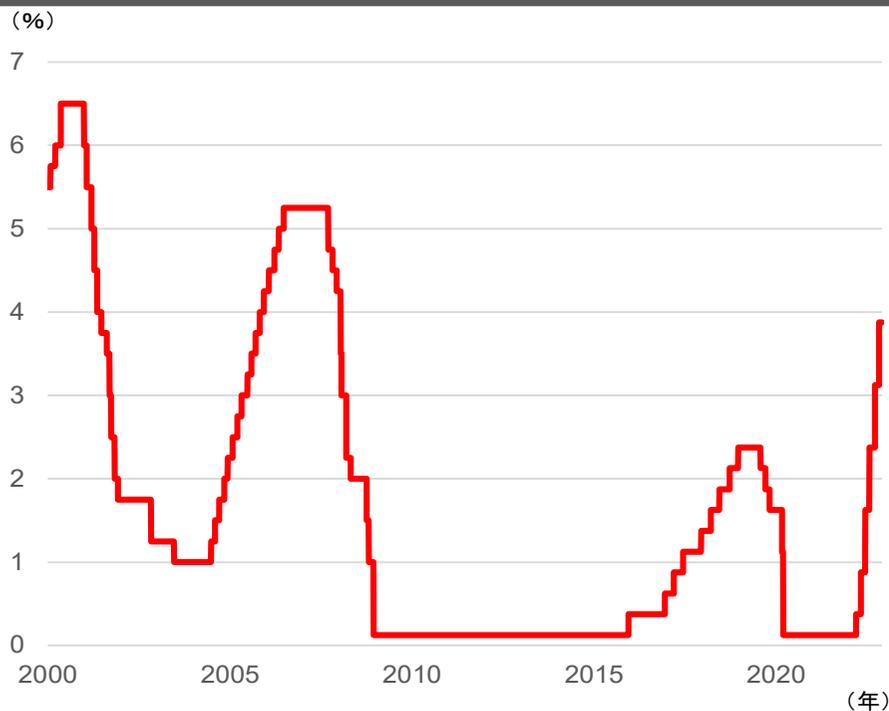


(注) 理論値は、2015年1月～2019年12月の貯蓄額をタイムトレンドで推計した値
(出所) 米商務省

金融政策：FRBは11月も0.75%の利上げを実施、今後も一段の金融引締めを想定

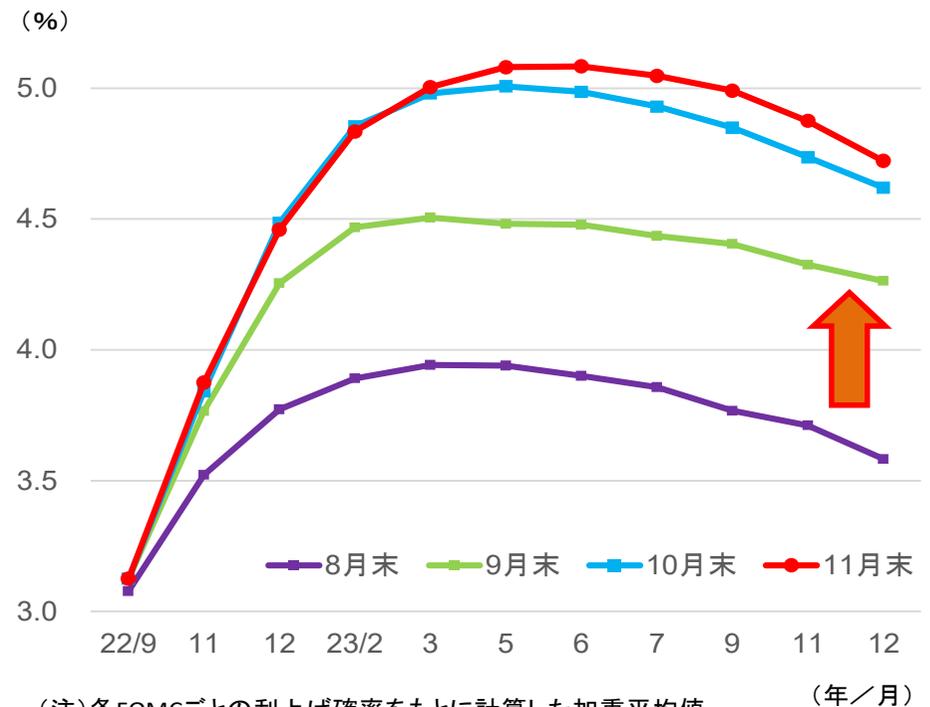
- FRBは11月1日～2日に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）で、政策金利であるFF金利の誘導目標を0.75%引き上げ3.75～4.0%とした。利上げは6会合連続、0.75%の大幅上げ幅は4会合連続となる。パウエル議長は会見で、利上げを継続する方針をあらためて表明した。
- 一方、次回12月会合での利上げ幅は0.5%に縮小されるとの見方が広がっている。また、金利先物から算出される金融市場の各FOMC毎の予想FF金利は、11月は消費者物価が市場予想を下回ったこともあり10月とほぼ同水準にとどまった。もっとも、労働需給が依然逼迫しているため、利上げそのものが想定以上に長期化するリスクがあることには注意が必要である。

政策金利



(出所)FRB

金融市場における各FOMCの金利見通し



(注)各FOMCごとの利上げ確率をもとに計算した加重平均値
(出所)シカゴマーカンタイル取引所

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 細尾 TEL:03-6733-4925 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください